

おもいかみのうち  
流山市 思井上ノ内遺跡

流山市思井上ノ内遺跡は、つくばエクスプレス流山セントラルパーク駅周辺の開発事業に伴って発掘調査を行った遺跡で、現在は報告書の作成に向けて整理作業を進めています。発掘調査は平成10年から14年にかけて6次にわたって行い、調査面積は約12,000㎡にのびります。

思井上ノ内遺跡では縄文時代早期後半と後期前半の集落がみつかりました。このうち今回紹介する縄文時代後期前半の集落は今から4,000年ほど前に営まれたムラで、考古学の世界で堀之内1式～2式と呼んでいる時期にあたります。集落は15軒の竪穴住居跡が直径約80mの環状に並んでいます。

写真は竪穴住居跡から出土した縄文時代後期の土器です。堀之内1式は縁に把手があり、文様が縦方向に描かれるのが特徴です。堀之内2式は縁が平らでラップのように開く形、文様は平行な線でパネルのような区画を描き、平行線の間を縄文でうめるのが特徴です。これらの文様はていねいに描かれ、高さ20cm程度の小さな土器が多いのも特徴のひとつです。



堀之内1式

木の葉のような文様がたてに3個描かれています。

正面に2個並んでいる穴は補修孔といい、縁にヒビが入ったけれど全体は割れてしまわなかったときに、ひもでしばって補修した時の穴です。道具を大切に使うという、エコの精神が感じられます。

土器の底がないため全体の高さはわかりませんが、残っているだけで30cm近くあるので、かなり大きな土器だったことはまちがいありません。



#### 堀之内 1 式

2本の平行な線が、縦方向にギザギザに描かれています。こちらも残っているだけで、高さが30 cm近くあります。



#### 堀之内 2 式

形・文様とも典型的な堀之内 2 式土器の特徴を持っていますが、高さが35 cmと大きく、たいへん珍しいものです。



#### 堀之内 2 式

大きさと形・文様とも堀之内 2 式の特徴をよく表していますが、文様の描き方が雑な点がこの土器の特徴です。